

## 第 4 回 伊賀市の賑わい創出検討協議会会議概要

- ◆開催日時 平成 28 年 1 月 14 日（木）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
- ◆開催場所 伊賀市役所本庁第 1 委員会室
- ◆出席委員 田山委員、柘植委員、廣澤委員、西田委員、中村委員、服部委員、八尾委員、風呂矢委員、前川委員、増永委員、奥委員、阿部委員、上田（功）委員、浅野委員、辻上委員、高倉委員、上田（一）委員  
（名簿順）
- ◆事務局等 尾登産業振興部長、堀課長、百田副参事、山主査、藤森主任  
（産業振興部中心市街地推進課）
- ◆説明者 堀課長、百田副参事（行政）
- ◆傍聴者 18 名

### ◆議事概要

#### 1. あいさつ

尾登部長

※開会挨拶を行った。

田山会長

※会長挨拶を行った。

尾登部長

※会議が成立している旨および会議の公開、録音について確認を行った。

百田副参事

※配付資料の確認を行った。

#### 2. 報告・確認事項

尾登部長

議事進行は会長にお願いします。

田山会長

前回の協議会の議事録が事前に送付され、読んで頂いていると思うが、何かあれば伺いたい。

特に意見がないので、本日の協議事項に入りたい。

#### 3. 協議事項

田山会長

資料 2 の資料作成フローについて説明をお願いします。

堀課長

※資料 2 に基づき、資料作成フローについて説明した。

田山会長

資料 3 以降の案を取りまとめるにあたって、事務局としてこういう視点で案を作ったという説明だと思うが、特に意見はないと思うが、各委員の皆様よろしいですか。

優先順位がどこにあるかは分からないが、カバーしていくべき視点はこれで良いのではないかと感じる。

続いて、資料 3 の賑わい創出案の説明をお願いします。

堀課長

※資料3に基づいて、中心市街地の賑わい創出案について説明した。

田山会長

途中だが、補足説明して頂きたい。A-2案はふれあいプラザに図書館となっているが、現在の建物は撤去し、新しいものを造るという前提で良いか。

堀課長

撤去する前提と言うよりも、撤去せざるを得ない。

田山会長

ここに図書館を持って来るならば新しく造り直す。その上で1階に既存のスーパーを入れて、生活者の保護を図り、図書館は2、3階にするというイメージですね。

それから、B-2案の今の図書館の場所に芭蕉翁記念館を配置する場合、今の図書館の建物はそのまま残すのか。

堀課長

公共施設の最適化計画では今の建物を利用するとなっている。

田山会長

補足として質問させて頂いた。

続きの説明をお願いします。

堀課長

※引き続き、中心市街地の賑わい創出案について説明した。

田山会長

ありがとうございます。

資料4に入る前に、ここまでの事務局の説明で質問があればお願いします。

西田委員

芭蕉翁記念館は新築してほしいと要望しているが、この案の中では新築という事は全く考えられていないが、新築の望みは全くないのか。

その代わり、図書館を使えという案になっているが、現状の図書館を利用しやすいよう拡大したり、中の整理をしたり、駐車場を増やすなど、そのまま図書館として利用する方法はないのか。

田山会長

今の私の質問主旨とは違うが、芭蕉記念館を観光施設に併設するという可能性はある。図書館の既存建物を利用するという費用的な面から案が出ていると思うが、まだ何も決まったわけではない。芭蕉記念館の新築というご要望として伺っておく。

上田一委員

メリットデメリットの中で、南庁舎について、A-1案のメリットに「保存・活用することで伊賀の歴史・文化の発信拠点として文化財的価値を有効に活用できる」とあるが、これはどういう意味か。新築でも発信拠点になるのではないか。

田山会長

主観的な意見だと思うが、市としてはこの建物が残ればと思っけていても、そう思わない委員もいるので、メリットには当たらないのではないか。会長から削除をお願いしたい。

浅野委員

前回までは南庁舎の保存か解体かについての議論をしてこなかったのですが、今回初めて議論することになると思うが、委員が判断できる資料が必要ではないか。これまで出ているのは感覚的な意見しか出ていない。きちんと説明する資料を作った上で委員に考えて頂く必要がある。

設計者の坂倉準三は、建築の教科書にも出てくる人物で大学の授業でも教える。それくらいの方が旧上野市の庁舎を設計しており、私自身も三重大に赴任してきたときに知って驚いた。坂倉準三が師匠のル・コルビュジェなどと一緒に設計に関わった東京の国立西洋美術館は既に国の重要文化財になり世界遺産の候補に挙げられている。

三重県内の公共建築で保存に関する議論ができるのは伊賀市役所だけだと思うので、そういった情報を知って頂いた上で判断をする必要があるのではないかと。

田山会長

費用の問題があるので、どうしても残したいなら移転して残す方法がある。この建物を残さなければならないという議論で成り立っていないので、その議論は今は避けたい。

辻上委員

文化的な価値について客観性があるかどうかについては、昨年、建築関係の学術団体であるドコモモジャパンから、近代建築物として184選の中の一つとして選ばれており、高い文化的価値がある。

田山会長

市民感情では、全体があったが、その7割か8割は歴代市長が壊してきたが、最後の2割を残すという議論がなぜ突然出てくるのかとを感じる。浅野委員の視点も大事な視点なので、各委員も将来の上野のことを考え、そういう視点と今まで壊したことはどうするのかと考えて頂きたい。

服部委員

芭蕉翁記念館について、桃青中学校の跡地など長年に渡って検討してきた。知らない人も多いと思うが、新しい記念館を建設するための積立金が当初は10億円以上あった。それが目減りしており、今はどうなっているのか詳しくはわからないが、建てるか建てないは別にして、そういう資金を使って建てるという予定があった。大垣や山形にも芭蕉の記念館があるが、生誕地としてふさわしい施設となると、積立金を使ってでも相当な物を建てて頂かないといけない。

にぎわいの中心とは違うが、20年くらい前には、図書館を文化ゾーンとして友生地区に移転させるという記憶もあるが、そういうのは資料として残っているのか。

そういう事も含めて、予算的にはもう少し明るくする必要があり、特例債がないと積み上げていけないというのであれば窮屈になってしまう。もし余剰の予算があるならば、こういう場を出して頂きたい。

田山会長

どうせやるならちゃんとした物をというのは皆さん共通していると思う。

私の方から確認したいが、資料3の8ページで、消防本部が伊賀市洪水ハザードマップで浸水想定地域に含まれるとあるが、これはどういう意味か。ここに図書館を建てられないと言うことか、建てても良いけど危ないという意味か。

賛成している委員が10人もいるので、ここに図書館を建てたくないという様な文章は書かないで頂きたい。また、平野に住んでいる人はどうなるのか。

辻上委員

ハザードマップで、万が一の場合浸水する地域に含まれている。浸水して支障があるといけないという注意書きである。どういう施設ならば問題がないかという判断をして欲しい。

田山委員

ではなぜ消防署がそこにあるのか。

辻上委員

消防署は非常時に機能しなければならない施設で、ふさわしくない場所なので移転の話をしている。

田山会長

もう一つ、合併特例債と社会資本整備総合交付金と出てくるが、これはそれぞれ制約を受けないのか。合併特例債は合併特例債として単独で使える部分と、例えば観光施設を造るならば社会資本整備総合交付金が使えると書いてあるが、そうした場合は合併特例債は他のことに使えるようになるのか。

堀課長

基本的に社会資本整備総合交付金の交付対象に対して合併特例債を併用できないが、交付対象以外の市の持ち出し分には合併特例債が使える。全てに合併特例債を使わずに、交付金を使って合併特例債の対象を減らした上で、他の事に合併特例債を使うことができる。

田山会長

少し時間がかかったが、これから資料4について説明をお願いします。

堀課長

※資料4に基づいて、タイプ別事業費の比較について説明した。

田山会長

ありがとうございます。

これから各委員のご意見を頂きたいが、その前に、予算以前に面積の問題として、例えば現在の図書館を芭蕉翁記念館にするためには、駐車場が足りないという現実問題としてあるので、自動的に可能性は薄いという事になる。また、ふれあいプラザを図書館にするのもほぼ同様で、また、街なかなかなので高さ制限もあるだろう。そういう事を考えると、案として非常に難しい。

そうすると、広さの問題は別として、ある程度考えられるのは、市役所の場所に芭蕉翁記念館を含む観光施設にすることと、図書館についてはここに立地するか、ここが難しいなら城北駐車場しかないだろうと思った。また、面積が3,000㎡で狭いという意見もあると思うが、そういう事も含めて、フリートークをしたい。

ここで一旦休憩とし、休憩後に活発なご意見を頂きたい。

※休憩

#### 4. 質疑応答

田山会長

再開します。

今日事務局から配布した資料の最後の方に参考資料として事例が添付されている。話が抽象的になりがちなので、やるならばこういうイメージだと言うことで事務局に用意して頂いた。それぞれ写真と図面が出ているので、参考にイメージして頂ければと思う。

皆さんの意見を伺う前に、辻上委員より一言あるとのことなのでお願いします。

辻上委員

先ほどの会長の話でも駐車場についての問題提起があったが、例えば現在の図書館は確かに駐車場が不足しているが、近隣にはかなりの空き地があるので、空き地を含めた整理が必要である。また、ふれあいプラザについては、第1期の中心市街地活性化基本計画では丸之内ルネサンスという事業名称で、約200台の駐車場を集約するという事業が位置づけられていた。未実施の事業であるが、第2期の計画の中でも必要であるということによって位置づけされている。

駐車場等や公共交通の利便性を含めて、基本的な考え方が位置づけされているので、ご議論頂ければと思う。

田山会長

駐車場については、事務局から台数を書いて頂いているが、周辺の駐車場を加味することでもう少し広げられる可能性は無きにしも非ずということなので、その点も理解して欲しいという主旨だった。

廣澤委員

平成32年度にオリンピック、平成33年度に三重国体がある事をまずおさえておいて頂きたい。そして、市役所の移転は平成30年度だが、完成しないとこの場所を利用することができないので、平成31年度に全てをやらなければならない。と言う事は、南庁舎に観光施設はオリンピックを目指しているのが難しい。

それから、芭蕉翁記念館を図書館にする事については、裏に駐車場がある。菅原神社の宮司は「売らない、売らない」と言っていたが、そんな事を言わずに協力しないといけないう話で、駐車場を購入できれば、裏に建てて、表を壊せば大きな駐車場ができるという事も考えられる。移転しないと建て直しできない、改修できないというのは当然だが、あるものは置いておいて先に裏に建てて、できた段階で既存の物を壊せば特例債を使う事もできるのではないかな。

先ほどあった積立金については大体7億円くらいあるので、解体費用も必要であるが、12~13億円の建物を建てる場合でも4億円くらいの持ち出しで済む。そういう事も加味して考えないと、市役所が出ていってから事業をやろうとすると特例債は使えないのではないかな。

図書館の改修費に特例債は使えるのか。

堀課長

使える。

廣澤委員

使えるなら、使う方法もあると思うが、今ある建物を壊したらいけないと言うのではなくて、安く上がるのなら、壊して利便性の高い物を建てた方が良い。

図書館も見せて頂いたが、リニューアルして記念館にするのはスペース的には何も問題ないが、展示ケースを購入したり、空調等を全て更新するのにかなりの費用がかかる

ので、そうならば初めから新しく建てれば、積み立ててきた顕彰会の方々の思いも伝わってくる。

田山会長

タイムスケジュールの話があったが、新庁舎はいつ竣工するのか。

辻上委員

平成30年の秋を目指している。

田山会長

それまでは動きようがないと言う事か。

辻上委員

仮の話だが、ここの利活用をしようとなると、どこかに仮庁舎を設けるなどしないと、早期に空ける事は難しい。

田山会長

移転が平成30年の秋で、色々やっていると年末くらいになってしまうだろうから、設計できていたとしても、取りかかれるのは平成31年1月以降になる。東京オリンピックは平成32年で、その時に竣工していたいという事だと2年弱しかない。設計できていれば2年でできるのか。

色々条件が付いて縛られると良いアイデアが浮かばなくなる。

廣澤委員

ふれあいプラザはアスベストの問題があるので、早々に壊さなければならないが、解体費用も普通より高いのではないか。隣の斎藤先生が持っていた事務所も貸した、売ったという話を聞く。貸したなら仕方ないが、売るならば分けてもらえば使い勝手がいい。そういう事も踏まえて早く決断しないと、段々手狭なところしか残らない。

田山会長

合併特例債そのものは平成31年度末が期限だが、だらだら延びている。常識的に考えれば国家もそれほど財政に余裕があるわけではないので、まだ延びる可能性はあるのか。当初から言えば5年くらい伸びているのでは。

辻上委員

元々は合併から10年間という期限があったが、5年延びた背景は東日本大震災により、従来行うべきだった公共事業ができずに延ばさざるを得なくなったからである。延長の要望はしているが、そういう特殊事情が出てこないとなると更なる延長は難しい。

田山会長

そうすると平成31年度がリミットとして考えなければならない。

奥委員

合併特例債を使って施設を整備するのは枠を目一杯使わなければならないと思う。今日の午前中には市から平成28年度の包括交付金の説明を受けたが、大山田などの郡部では施設の改修や撤去が必要だが、これで目一杯使ってしまうと、金がなくなって郡部の整備が段々と遅れていくのではないかと懸念している。

辻上委員

全てをここに使う訳にはいかない。限られた期間内で市全体の活性化、基盤整備をしていく必要があるので、考えていく必要がある。

田山会長

私はこの資料を見て、最大で 34 億円で安いと思った。これだけの夢をこの金額でできるなら、伊賀市にとっては充分やる価値がある。今は小さな工場を建てるだけでも、あつと言う間に 10 億円かかる。そういう事からいけば、色々条件はあるが、波及効果、都市の活性化につながる。市も郡部に広げようと努力しているので、前向きに考えて頂ければ。

中村副会長

立場上、個人的な意見は別にして、今回の賑わい創出の一番のポイントは伊賀市の玄関である現建物、ここをいかに核として活用するかである。そのためには、考え方としては市民の文化的には場所が変わっても良いが、観光や産業である。にぎわいの核になる一番のポイントは現南庁舎である。

それに反論して、今 5,900 m<sup>2</sup>の建物で、新しく建てる建物がなぜ 3,000 m<sup>2</sup>か分からない。果たして 3,000 m<sup>2</sup>で中身がどうなるのか見えていない。その倍の約 6,000 m<sup>2</sup>ある南庁舎を壊す理由はどうなのか。コンパクトというのが良く分からないが、3,000 m<sup>2</sup>の建物に何が入るのか疑問に思っている。

それから、ふれあいプラザも芭蕉翁記念館も築 30 年以上で極めて年数が経過した建物であるので、それを設備などを改修するには大変なお金がかかる。古い物をいかに使うかというより、むしろ、解体し、更地にして、必要がなければ無理して使うという発想でなく、市の資産なら民間に売却して資金を得る。

ここへ来て、日本全国の図書館が議論を醸し出したりしているが、市として思い切ってやっている市は、新しい 10 年、20 年先の図書館がどんどんできている。伊賀市が今一番必要な新しい建物は、新たな芭蕉翁記念館と図書館、そして、関連して美術館まではいかなくても美術館、博物館らしいもの、或いはちょっとしたホールが複合した建物で、思い切って特例債を集中して新築して頂きたい。改築は今の見積りでも 28 万、30 万近い改修費がかかるので、お金をかけた割に効果が薄いと思う。

結論を申し上げますと、南庁舎を中心とした観光。新庁舎に移る日は決まっているので、間に合うのかと質問があったが、事前準備さえしっかりしておけば、引っ越しに 1 年以上かからないし、改装するにしてもそんなにかからない。また、市の財産をいつまでも持って活用する事に固執せず、使えない物は解体して駐車場にするとか、売ってお金に替えるとか、それから、新しい施設は経営営業感覚を持つべきである。喫茶店や物販を入れる、テナント収入をいかに入れるか。投資に対していくら回収するかという、ショッピングセンター的発想をして、休むところ、食べるところ、物を売るところなど、テナント収入を考える時代ではないかと思う。

田山会長

南庁舎とは、ここの跡地ということか。

中村副会長

建物として申し上げている。例えば、芭蕉翁記念館、図書館等の新しい機能を持った施設は、思い切って城北駐車場に移転する。まちの中でごちゃごちゃ触っていても、古い建物をいつまでも利用する、駐車場の問題もあるので、それならば伊賀市の 20 年先を見て思い切って新しい、市民サービスが十分できる施設を決断してもいいのではないかと思う。

廣澤委員

今、菅原神社の境内と商店街をリニューアルしようと検討している。神社から 3,000 万円くらいの持ち出しをし、中心市街地活性化事業に載せて頂くようにまちづくり会社と一緒にやろうとしている。うまくいけば、9,000 万円くらいの事業ができ、周辺の整備ができ、緑も増やせるので、完全に芭蕉翁記念館としての位置づけができる。裏に土地を買って頂いて、記念館を建てて、表の今の図書館は壊して駐車場にすれば出入りも楽になる。流れとして、一体的な考え方を持ってやれば、芭蕉生家も近く、蓑虫庵への中継点にもなる。そういう事を踏まえてやって頂かないと、あそこが広い場所が余っているから良いというのはおかしい。

田山会長

その場合は今の図書館を改築して芭蕉翁記念館にするのか。

廣澤委員

先ほどから言っているが、裏の駐車場がかなり広いので、そこに芭蕉翁記念館と付随して美術館を建てて、完成後に前の図書館を壊すと合併特例債が間に合うので、そういうやり方でやって頂きたい。博物館は美術館を併用した中で造っていく計画で進めて頂ければ。

西田委員

記念館は改修して何とか使おうというのは、広さがあっても機能的に無理だと思う。場所の問題については、我々としては南庁舎の跡の方がいい。機能的には新しい建物が必要で、図書館として建てられた物が簡単に記念館にリニューアルは難しく、土地の広さも問題もあり、道の拡幅なども付随してくるので、全体的に考慮しなければならない。

田山会長

今の記念館はあと何年くらいもつのか。

西田委員

あと数年もてばいいというくらいの。

こちらとしては焦っている。

田山会長

ここの一等地に図書館があればいいのではないかという委員が 9 名いる。付帯意見が付いているので、様々な条件があるが、南庁舎の場所に図書館がある事によるメリットについて、発言頂ける方がいればどうぞ。

風呂矢委員

観光であれ、市民であれ、まずは集客力のある拠点をつくる事である。あそこに行けば誰かに会えるという様な人が集まる場所が先決である。そのような施設であれば、図書館でも何でも良いが、今の図書館には伊賀市の各資料があるが、今の図書館は狭く書庫も狭く見ようにも見られないので、宝の持ち腐れ状態である。また、学生達が隅の方で勉強している姿を見ると図書館とは言えない。そうではなく、以前紹介があったツタヤ方式など抜本的に変えて、明るくて人が集まり楽しめる、そして、勉強もコミュニケーションできるような場所にしないと人が集まらない。なので、南庁舎を壊して、3,000 m<sup>2</sup>という広さは別にして、余裕のある広さの物を造らないと、何のためにやったんだになってしまう。まず人を集めると言う事で図書館を提案した。

田山会長

風呂矢委員に伺いたいが、観光的にはどう考えているか。

風呂矢委員

今は平日はほとんど人がいないが、図書館を造れば平日も人が集まるようになる。

また、図書館のみならず、観光的な誘いをできる場所にして、細かく見るのであればその場所へ行ってください、例えば忍者を見たいのなら忍者記念館や忍者屋敷を案内するなど、この場所に来れば伊賀市の全体像が見える場所のイメージである。

田山会長

今のご意見は南庁舎を取り壊し、ここへ新しい図書館を造って、観光的にはワンストップの案内をできるような施設ができれば、平日も休日もそこそこの集客があり、3,000㎡あれば駐車場を確保できるだろうという意見だった。

風呂矢委員

3,000㎡では狭い。

中村副会長

合併特例債は期限がある。平成30年の秋に市役所が移転して、それから解体をして、新たな物を建てても平成31年度には物理的に間に合わない。それをはっきり抑えておかないと、色々な発想が出てきても、これはできませんとなるのは良くないので、全員の共通認識が必要である。

田山会長

タイムスケジュールの精度の問題があるが、この点はどうか。

時間の問題が現実的ではないのではという意見があったが、現時点で分かる事で良いので、スケジュールについて説明をお願いしたい。

堀課長

新庁舎ができた後、南庁舎を改修して使えるかどうかと検討すると、改修の工法の検討は別とするが、工程としては約1年半かかる。ただし、技術的には今後突き詰めて考える必要があるが、南庁舎をどういう施設にするかは別途、並行して検討する事により、市役所移転の段階で実施設計ができていれば、1年半で改修工事は期間内に間に合う可能性がある。

南庁舎を解体、新築する場合、今の空いているスペースに建てるという方法しかなく、同じ場所に新築するのは不可能である。

田山会長

ここを更地にして全く新しく建てるとなると、市役所をどこかに移転して貰わないとまらない。

堀課長

そうするか、或いは今空いている北庁舎跡に建てられるかという検討する事になる。

田山会長

場当たりのものは良くない。

ここでの選択肢としては、南庁舎を解体するという委員の意見が多ければ、市役所がどこかに仮に移るという事を前提としてもいいか。

元々ここで建て直すという案は難しかったのか。

堀課長

今の市役所の敷地が約 12,000 m<sup>2</sup>あり、そのうち南庁舎の建物が約 2,000 m<sup>2</sup>あるが、南庁舎の場所に建てるのは、壊す必要があるが、空いているところに建てるのは可能である。

田山会長

タイムスケジュール上非常に難しい状況であるのは分かったが、更地で何かやりたいという選択肢として残しておいていいのか。

堀課長

選択肢としてはある。

中村副会長

廣澤委員が仰った芭蕉翁記念館は、北庁舎跡に建てるという方法はあるという事か。

田山会長

そういうことはできる。

阿部委員

スケジュールの問題で、芭蕉翁記念館が古くてどうしようもないという事だが、消防本部はもう移転できるのか。消防本部が空くのなら、そこに図書館を建てて、図書館の所に芭蕉翁記念館を持ってくればいい。優先順位を決めてやらないと、市役所の移転を待っていたら平成 30 年の秋まで何もできなくなってしまう。平成 28 年度から 30 年度までの 3 か年で何か新しい建物を造らないとできない。一遍にはできないので、できる事から順次やらないといけないので、そうするとどこの敷地が最初に空くかの問題で、消防本部の敷地が最初に空くはずである。

辻上委員

新しい消防庁舎は建設中で、夏までに完成し、その後に引っ越し作業を行うので、秋には空くと思われるが、一部、通信指令システムの移転は未定だが、来年度中には空くと思う。

阿部委員

先ほどの資料には消防署の跡地は駐車場が足りないと書いてあったが、消防署の敷地の駐車場も含めた全体を図書館にすれば城北駐車場が全て使えて、駐車場の台数が増えるので良いと思う。

田山会長

コストパフォーマンスが良ければいいが、せっかく合併したので、合併特例債が使える事である。どこの地方都市も特例債が使えるから合併したという所が多いと思う。期限が近づいているので使わない訳にはいかない。自己負担分は多少あるが、せっかくなので、既存の改修ではなくて、図書館くらいは良い物を造りましょう、芭蕉翁記念館も思いを込めて積み立ててこられたので、議論をして頂きたいが、将来に残す物は立派な物を造ったら良い。一方でいらぬものは必要ない。例えば、前回見学した歴史民俗資料館などは、市民的な利用もほとんどなく無理矢理造った印象を受ける。

この協議会としては夢を実現しようとしている話なので、既存のコストの問題もあるが、判断して頂ければと思う。

前川委員

副市長が言われたように、現在、市の農林課や教育委員会が別れている。まずはここを改修するのか、壊してたてるのかが一番肝心だと思う。今はふれあいプラザには地域

づくり推進課があり、阿山支所には農林課、大山田支所やハイトピアには教育委員会が入っているなど、バラバラであるが、南庁舎を期限までに早急に整備するのであればそのような方法もあると思う。

中心市街地に人を集めるのが一番肝心だと思う。南庁舎は新築で3,000㎡は狭いので、ここに芭蕉翁記念館や図書館、そして、付属する古陶館などを整備し、それができないのであれば図書館をどこかに移動させる。そして、その中に観光ゾーンとして、伊賀の物産や伝統工芸品の展示、実演をしたらいいのではないかと思う。

期限が切られているので、更地にして建て直すのもよし、この建物を改修するのもよしだが、今入っている市役所を即、どこかに移動させて、期限に合わせるような施設にしたら良いのではないか。

#### 服部委員

この会議室から旧桃青中学校の校舎が見え、また、木を切れば上野城も見えるだろう。ここは景観的にも伊賀の中心の一番良い場所である。今まで芭蕉翁記念館と図書館と一緒ににぎわいとやっているが、根本的に図書館は一般市民や学生など市の中の人を動かす施設であり、一方で記念館は芭蕉祭などの時期を除いて普段は、市民がなかなか行かない施設であるので、根本的に賑わう目的が違う。

今はハイトピアに高校生が集まって勉強しているが、こういう景観の良い土地で将来の事を語ってもらうなど、人が出てくる場所が必要である。

芭蕉翁記念館は芭蕉翁記念館として、図書館は図書館として、2つ一緒に建てる訳ではなく、目的を変えて整備する必要がある。

大垣は芭蕉がただ奥の細道の最後に来たというだけで、40億円かけて一番古い建物だけを残して、それ以外は全部新築していると聞いた。集中して一つの物を建てたので素晴らしいと感じた。

小さい施設をずっと建てるのも一つの方法であるし、一方で大きな物をバンバンと建てるのもあるが、特例債は別として、丁寧に見ていった方が良い。この際全部一緒にとやって、後でここはこうしたら良かったとなるのは困る。

#### 田山会長

芭蕉翁記念館と図書館をパッケージにした考え方は今日の事務局からの報告にはなかった。それぞれが独立した建物であり、もっと言えば、芭蕉翁記念館が集客力がある施設だったり、或いは、文化ゾーンとしてやるのであれば、小美術館を併設したり、ちょっとした物販施設や観光施設を併設しても構わない。

今日の参考資料の図面や写真でイメージして頂きたいと思う。各委員の意見で図書館と芭蕉翁記念館が一緒というのはあまりない印象を受ける。

#### 高倉委員

図書館と芭蕉翁記念館を同じ建物の中に押し込める発想ではない。伊賀市民のプライドとして、芭蕉翁記念館は独立した建物として存在するべきである。また、図書館は芭蕉翁記念館の代わりは絶対にできないので、その代わり、芭蕉翁記念館のコンセプトをどうするのかをきちんと考える必要がある。本当に大垣の芭蕉記念館のようになって良いのか、伊賀の芭蕉翁記念館はどうするのかは、それは十分に考える必要がある。規模が大きければいい訳ではなく、大垣には無いものが伊賀にはあるので、それを大事にすることが一番大切である。

また、図書館は集客力があるのは間違いなく、そういうものを造らなければならないが、それと同時に、一義的には内向き、市民に対するサービスにウエイトが置かれる事は言うまでもなく、それだけでは伊賀モデルの図書館にならないので、合わせて外から来た人にも「上野に行ったらまずは図書館だよ」と言われるような施設にしなければならない。先ほど風呂矢委員が仰った様に、ここから始まって色々な所に流れる動線を考える事が、新しい図書館の有用性である。その中で芭蕉翁記念館や様々な施設ともコラボレーションしていく必要性が出てくる。

田山会長

時間がないので、南庁舎を残すのかを決めないと話が前に進まない。南庁舎に関する考えを頂きたい。

八尾委員

南庁舎は外して頂きたい。先ほどから、消防署の跡地に図書館をとという意見がいくつか出ているが、消防署が移転する時に消防署の職員は「浸水しそうな所に消防署があるのは不都合だから移転します」と言われたが、あそこには私の地区の住民が住んでいるのに何事を言うのだと、消防署に言いに行った。あそこを使うのならば中署だけでも置いて欲しいと言ったが、諸事情でだめとの事だった。なので、あの場所に大事な図書を置いておくのはふさわしくないので、できれば南庁舎を解体して、ここに新しい図書館と、或いは芭蕉翁記念館を別でも構わないので建てて頂ければと思う。

また、桃青中学校の跡地については、あの坂を登り下りするのは大変なので、観光的には不向きだと思うので、そう考えれば、ここに文化的なゾーンまたは観光的なゾーンを持ってきて集客して頂ければと思う。

田山会長

南庁舎は撤去し、ここには図書館が望ましいが、併設して観光施設があればいいという意見で、そうすれば駐車台数が減る可能性もあるが。

八尾委員

それは地域の人が協力して考えれば良い。

田山会長

南庁舎に絞って他の委員からも意見を頂きたいが、残すべきと言う人もいると思う。

奥委員

35年位ここで仕事してきたが、震度3くらいでどれだけ揺れるかを実際に体験している。また、雨漏りしているので、恐らく中の鉄筋も腐食して、コンクリートと分離しているはずで、危険であるので、結論は撤去である。

図書館にするにしても、伊賀市の人口は合併当初から減っており、今は外国人を除けば10万人を切っているので、人口に比例した施設が一番良いと思う。にぎわいという意味では、図書館や記念館だけでなく、誰でも使えるギャラリーで住民自治協議会で展示をして賑わいにつなげる様な施設ができると思う。そういう施設が、ある程度駐車場を確保した上で、賑わいにつながると思う。

上田一委員

南庁舎は解体した方がいい。

改修費が出ているが、それ以外に相当年数が経っているので、これからのランニングコストがかかる。また、新しい建物は自由に設計できるので、使い方としては非常に良い。

上田功委員

南庁舎は解体だと思っているが、他の委員とは意見が違う。この場所は一等地であるのは間違いないが、芭蕉や忍者の観光の面から見れば、京都、奈良や伊勢などの観光地は神社、寺など観光客が見込める建物がある事と比べれば大きな違いがある。そういう意味では、この場所はコンパクトな観光の施設を造って、例えば、藤堂高虎が大河ドラマになれば観光客が見込めるので、そういう時のためにある程度の場所を空けておいた方がいい。逆にそうでなくなった場合、あまりに立派な物を建てればランニングコストがかかるので、コンパクトな物を建てれば良いと思う。図書館も一度置いてしまうと動かすのが大変なのでふれあいプラザが良いと思う。

田山会長

事務局にアンケートとつてもいいか。

辻上委員

コンクリートの建物に対する考え方として、これまでは40年、50年経つと解体するという考え方だったが、今はそうではなく、長寿命化という方向になっている。例えば、学校建築でも、文部科学省が70年、80年と使い続けなさいという考えに変わっている。この建物についても、建築の専門家で第3者調査委員会を設けて調査して頂いたが、改修すればあと50年は充分使えると言われている。また、新築に比べてかなり安価で改修でき、一般的には7割程度の金額で改修できると聞いている。そういう事も含めて全ての公共施設の最適化方針を定めており、議会の議決も頂いている。その中には、使える物は使っていくとしており、その際に複合的な利活用を図っていく事で、単体で整備するよりも安価で効果もあるという考え方がベースにある。

田山会長

では、関係ないが高速道路は一度造れば70年持つのか。

辻上委員

私は専門家ではないので道路・橋梁と建物が同列になるかは分からない。

田山会長

首都高も阪神高速も今造り替えているがどうなのか。

辻上委員

造り替えではなく、高速道路も長寿命化を図っている。

田山会長

何しているのかは知らないが補強している。

コンクリートが70年というのは初めて聞いたが、どうなのか。

辻上委員

明確な調査結果として使用可能な年数が出ている。

風呂矢委員

一般的には50年から60年と聞いている。

田山会長

今この建物は何年なのか。

辻上委員

ちょうど築 50 年である。

田山会長

ではあと 10 年くらいしか持たない。

浅野委員

冒頭も話したが、南庁舎についてはこれまでシンポジウム等をして色々と議論をしてきたが、その情報はどれくらい行き渡っているのか。私も専門家として市が主催する勉強会やシンポジウムにも参加したが、そのアンケートでは坂倉準三の位置づけや庁舎建築の位置づけについて良く分かったという声が多く、取り壊すべきという意見は少ない。一般的に情報が提供されていないと、昭和の高度経済成長期に建てられた建物が取り壊される事が多いので、取り壊せというイメージになる。三重大の鉄筋コンクリートの専門家である畑中先生も入った専門家委員会を立ち上げて、三重県建設技術センターで調査して利用可能という結論が出ているので、それを否定するのであれば、それを超える意見を出して頂いた方が良い。

また、坂倉準三についても、日本の近代建築は世界的に評価をされており、文化庁が整備した近現代建築資料館ではトップバッターとして坂倉準三が選ばれ、この市庁舎の図面も展示されたが、そこでの評価も知って頂く必要がある。大学にはそういう資料もあるので、見て頂く必要がある。

ちょっと有名な程度の建築家であればこういう話はしないが、相当著名な日本を代表する建築家で文化庁の収蔵対象となっているので、伊賀焼や組紐で言えば伊賀生まれの著名な作家が高く評価され文化庁に選ばれているのと同じ物である。それが分かるような説明の場を設けてから議論して頂いた方が良い。それを超えて否定して新しい物を造ると言う事になればそれは仕方ない。

また、私は伊賀市の景観審議会の委員をしているが、近代建築だけを残すべきと言うのではなく、町家や蔵、農家建築も同様に残すように取り組んでいるが、例えば城下町の本町で町並み調査をしても町家は 10%、20%位しか残っていないが、市民は残された数少ない町家建築を活用していこうという活動が一般論として賛同して頂いている。先ほど会長から沢山あった坂倉準三建築がかなり壊されているという話があったが、決して近代建築だけでなく、町家や蔵もかなり壊されているが、残して活用していこうという方向になってきている。

また、建物が取り壊されるのは当時の社会的な影響が大きいですが、戦後 70 年が経ち高度経済成長期の建築を文化財に指定できるようになってきたので保存の議論ができるようになってきた。20、30 年前は昭和の建築がまだ新しかったが、ようやく議論ができるようになり、文化庁の収蔵対象に位置づけされるようにもなってきたので、委員の皆さんに改めて知って頂いて、それを超える意見があれば取り壊す事はやむなしだが、建築の専門家から見てもこの建物は充分利用可能なので、慎重に判断して頂きたい。

田山会長

専門的になるとサポートオピニオンも欲しいので、悪いとは思わないが、各委員は自分の感性の中でどう思われるか判断して欲しい。

風呂矢委員

浅野先生に伺いたいが、コンクリートの打ちっ放しの建築は非常に良いが、今は汚くなっているので、保存する場合に白いペンキを塗っても美観的に良いのかどうか聞きたい。

浅野委員

坂倉準三が設計した東京の国際文化会館など、洗浄により綺麗に蘇っている事例もあり、建設技術センターの調査結果でも新築同様に蘇らせる事が今の技術で可能という調査結果が出ている。ただ、そういう情報が伝わっていないので、今の汚いイメージのまま図書館にしても良くないと思われているのではないか。改修されて蘇っている事例も増えているので情報提供が必要である。

田山会長

それでも今の計算でいくと最大でも20年したら撤去になる。

今からそういう議論をする訳にはいかないのでもっと待ってください。当協議会として次回に何をするかを決めなければならないので、各委員の皆さんが南庁舎を壊すのかどうかという、方向性を決めないと次に進まない。これを残しながらだと何となく図書館的になるし、イメージも湧かないし、全部きれいにしてやろうという意見も多いので、そういう事を踏まえて、事務局に用意して頂いている。開票は次回としたい。

堀課長

アンケートは用意している。今日はアンケートを採るとするのは会長の仰る通りやって頂きたいが、事務局としては、浅野委員の意見にあった様に、この建物についての第3者委員会の資料はこの協議会に一部出しているが、もう少し、次回までに追加の資料を提供して、見て頂く機会が必要だと思うので、それを含めてアンケートの回答を宜しくお願したい。

田山会長

そうしたらもう一回会議をやらなければならないので、次回はアンケートの結果を踏まえてやれば良いのではないか。

もし資料があるなら配って頂いて結構であるが、次回来られた時に気が変わったらなその時点で変えて頂ければ良い。だらだらやってもしょうがないので決めましょう。

配っている間にスケジュールの説明をして下さい。

堀課長

※資料5に基づいて、第5回以降のスケジュールについて説明した。

田山会長

ありがとうございます。

アンケートの書き方についても説明して下さい。

堀課長

※アンケートの回答方法について説明した。

田山会長

A案、B案のそれぞれについて記述してくださいという事ですね。その上で現南庁舎をどうするか、そして、付記すべき事があれば書いて頂くという事で宜しいか。

尾登部長

先ほどアンケート結果は次回という事だったが、浅野委員から意見があった利活用に関する資料が今は無いので、例えば提案だが、委員に資料を送った上でアンケートを返信用封筒に入れて返して頂くという事はできないか。

田山会長

先ほど申したとおり、後で翻意するならばそれで結構なので、次回までに浅野委員の資料を読まれて直して頂ければ良い。次回に資料が揃ってないと次のステージに進めない。

28日にまとめるので時間がなく、今が一番書きやすい時間である。

A案かB案か決めかねている場合には、南庁舎を保存か解体かだけ書いておいて頂ければ良い。

堀課長

ただいま委員から質問があったが、例えばもうA案でいいというなら片方だけ○をつけて頂いても良い。

前川委員

住民自治協議会は全部38地区あるが、情報は伝わっているのか。

堀課長

協議会の資料や議事録はホームページに掲載しており、この会議自体も公開されている。また、中間案が出た段階で住民自治協議会の意見集約をする予定である。

田山会長

傍聴された市民で意見がある方は手用の用紙に書いて頂ければ。

堀課長

先ほど説明したスケジュールの変更は了承頂いたという事で良いか。

田山会長

最終報告が3月中旬から20日頃の間で、それまでにパブリックコメント、自治協の意見を集約するという事で宜しいか。とにかく3月の終わりには決めなければならないタイムリミットが決まっている。

## 5. その他

堀課長

※次回第5回は1月28日（木）14時00分から、第1委員会室にて開催される。

※第6回は2月23日（火）の予定だったが、3月7日（月）13時30分からに変更された。

（以上）